

リバーフロント研究所報告

第 6 号

Report of

Technology Research Institute for Riverfront Development

No. 6

1995 年 3 月



財団法人 リバーフロント整備センター

Technology Research Center for Riverfront Development

は じ め に

本年1月の兵庫県南部で発生した地震は淡路島北部および神戸等の大規模な被害を与え、亡くなった方は5000人以上、倒壊、崩壊した建築物は概ね20万棟におよび、今なお30万人以上の住民が避難所生活を送っており、社会資本である鉄道、道路、港湾等の被害も甚大なものであります。人口が集中した都市部における直下型地震の恐ろしさを実感した次第であります。

今回の兵庫県南部地震は都市基盤施設の重要性和施設の整備それに伴う都市生活の新たな在り方というものを提起したといえるのではないのでしょうか。

建設省において1994年1月に発表された「環境政策大綱」でかけられた、「地球環境問題の解決に貢献することが建設行政の本来的な使命」であることはいうまでもありませんし、まさしくこの観点からの施策の施行が課題解決の道であろうと感ぜられます。当研究所と致しましても「安全で豊かな潤いのある水辺空間の保全整備」をめざし一層の努力を行い「環境」を建設行政の内部目的化する一助と成したいと考えております。

また、本年3月に河川審議会は、建設大臣に対し「今後の河川環境のあり方について」を答申しました。その答申基本方針として「生物の多様な生息・生育環境の確保」、「持続可能な人間の諸活動を支える水循環の実現」及び「河川と地域の関係の再構築」があげられています。この基本方針は当センターの設立目的である水辺空間のあり方、水辺空間の保全と利用及び整備に関する調査研究と軌を一にするものであり、当センターが1987年9月に設立されて以来取り組んできた課題でもあります。その成果の一端として1989年以来年度毎に当センターの調査研究を取りまとめ研究所報告を発刊してまいりました。このたび、研究所報告第6号を発刊する運びとなりましたが、これらは一重に建設省ならびに関係各位のご指導とご支援の賜物であります、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本報告書は、平成6年度の研究成果を論文として取りまとめたものであります。御一読のうえ、ご指導、御叱責を賜れば幸いです。今後はこれらのテーマをさらに研究を続けるとともに、新たな課題の解決に向けて新しいテーマに取り組んでまいりたいと考えております。今後とも関係各位の、より一層のご指導とご支援をお願いする次第であります。

1995年3月

財団法人リバーフロント整備センター
理事長 寺 田 斐 夫

目 次

高規格堤防の盛土材料の流通システムに関する検討	大河原 孝	1
軟弱粘性土地盤上の盛土における地震時の安定性評価手法 に関する研究	石原 吉雄	8
諏訪湖及び天竜川上流部の水質改善について	若森 敦裕	17
生物指標を用いた水環境の指標化に関する研究	木下 猛・関 克己	26
沿岸域管理手法のあり方に関する一つの考察	上野 久	39
河川水辺の国勢調査の成果活用に関する基礎的研究	関 克己・唐 裕一	53
河川水辺の国勢調査のデータベース化に関する研究	鳴海 繁実・田谷 全康	62
多自然型川づくりへの取り組み（その3）	美寺 寿人・関 克己・樋口 経太	70
伝統的河川工法に関する研究	樋口 経太・関 克己・美寺 寿人	74
多自然型川づくり河道模型 製作手法について	美寺 寿人・関 克己・樋口 経太	83
河川にかかわる希少動植物について	若森 敦裕・小西 克彦・関 克己	91
フラクタルによる河川景観の設計手法 に関する検討	関 克己・鈴木 輝彦・唐 裕一	99
河川の植生管理方法に関する研究（その1）	関 克己・唐 裕一	106
水辺空間の整備構想に関する研究	樋口 経太・関 克己・若森 敦裕	114
河川に係わるソシオエコシステムの基礎的検討	森 貴史・関 克己	126
河川の気象緩和機能についての基礎的検討	森 貴史	135
宇川の多自然型川づくりに関する検討	田谷 全康・関 克己・岡崎 克美	144
諏訪湖の水辺整備について	上野 久	156
魚ののぼりやすさからみた河川横断施設と魚道の現況	櫻木 喜久	165
魚にやさしい落差工型式についての試案	名取 哲哉	179
魚にやさしい根固めブロック（魚道ブロック） の開発に関する研究	高橋 定雄・名取 哲哉	188
水門、樋門・樋管の景観設計	萩原 運弘	195
風土からみた我が国の河川像について	木田 直秀	203
親水施設計画設計ガイド	中村 靖雄	212
河川空間利用施設データベースの検討	倉田 糧造	221
（財）リバーフロント整備センターの共同研究について		230